## かどうぜきかいらんばん

平成21年3月1日号 (No.44) 国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所大河津出張所 TEL 0256-97-2121

E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

可動堰本体工事、寺泊町軽井地区における堤防災害復旧工事の進捗状況についてお知らせします。

## 可動堰本体工事の進捗状況について

堰本体工事は、今月実施を予定している堰柱3基(堰柱3,4,5)の4回目(最終)のコンクリート打設に向けた鉄筋の加工・組立などを実施しています。これにより、6月までに、昨年度に完成した左岸側の堰柱2基(堰柱1,2)と合わせて5基の堰柱が完成します。また今月からは、基礎杭工、遮水矢板工、護床工を実施します。基礎杭工は、堰本体を支えるための基礎となる杭(鋼管杭)を地中に打ち込むもので、直径0.8m~1.1m、長さ5.5m~16.0mの杭を約580本施工する予定です。遮水矢板工は、浸透水による堰本体底面の空洞化を防止するために鋼矢板で遮水するもので、幅0.6m、長さ3.0m~12.5mの矢板を約1,400枚施工する予定です。護床工は堰本体の上下流が流水で洗掘されるのを防止するため、粗朶沈床と異形ブロックを設置するもので、粗朶沈床を約9,700m2、異形ブロックを約2,200個施工する予定です。これらの資材は与板橋方面から県道長岡寺泊線を経由して搬入する予定であり、通行中の皆様にご迷惑をおかけしないよう安全を最優先に行いますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。





堰柱3,4,5のコンクリート打設の順序







粗朶沈床は明治時代 にオランダから伝わっ た伝統的な工法で、新 潟県内でも多くの河川 で用いられています。

## 町軽井地区の堤防災害復旧工事の進捗状況について

平成19年7月16日に発生した「新潟県中越沖地震」により、堤防の亀裂などの被災を受けた長岡市寺泊町軽井地区で実施中の災害復旧工事は、現在、延長約1.7kmの工事区間のうち、町軽井揚水機場から上流約1kmの区間で工事を実施中です。これまでに、地中の液状化(※1)しやすい地盤を改良するための砂杭の打設(※2)を全て完了しました。砂杭は、直径約70cm、長さ約5m~10m程度のものを地中に約10,000本打設しました。現在は、地盤改良が完了した範囲において堤防を築くための盛土作業を行っており、この区間の工事は3月末までに完了する予定です。今後はこれより上流約0.7kmの区間において引き続き工事を実施する事としており、実施時期が決まり次第改めてお知らせします。

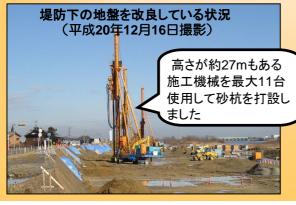
(※1)地中の液状化→地震で地盤が揺さぶられたときに、地下水が一気に噴き上げ地盤が泥水のように 緩む現象のこと

(※2)砂杭の打設 →軟弱地盤を補強するために、人工的な砂の柱を地中に打ち込むこと











『**可動堰なんでも電話**』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。 0258-32-3134 (平日 AM9:00~PM4:00)

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)

大河津出張所・大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等

建設監督官(可動堰改築担当):大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所 http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ 大河津可動堰情報館 http://www.hrr.mlit.go.jp/ shinano/kadouzeki/ 信濃川大河津資料館
http://www.hrr.mlit.go.jp/
shinano/ohkouzu/index.html